

令和7年度放射線安全取扱部会年次大会 年次大会へのお誘い



令和7年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員長 稲垣 昌代

令和7年度放射線安全取扱部会年次大会（第66回放射線管理研修会）を令和7年10月16日（木）、17日（金）の2日間、琵琶湖のすばらしい景色を見渡せる滋賀県立県民交流センター「ピアザ淡海（おうみ）」（滋賀県大津市におの浜1丁目1番20号）にて開催いたします。

今大会のメインテーマは「放射線の三方よし！～管理・利用・世間を主任者が紡ぐ～」です。今回の開催地「大津」は交通の要衝地として発展してきた歴史があり、江戸時代から明治時代にかけて日本各地で活躍した近江商人が有名な土地柄でもあります。その近江商人の経営哲学のひとつ「三方よし」の概念を参考に、放射線関連の分野に応用する企画といたしました。大津に集結した全国の部会員の皆さまに活発な意見交換の場を提供できればと思います。

大会1日目は、ピアザホールにて、部会総会、功労表彰・放射線安全管理奨励賞の表彰式、3つの特別講演、そして大会議室では、ポスター発表と機器展示コーナーを一つの空間にて開催します。また、ピアザホール2階ロビーには相談コーナーを設けます。

特別講演Ⅰは毎年恒例の原子力規制庁による「最近の放射線安全規制の動向」についてご講演いただきます。

特別講演Ⅱは「核医学治療の最新動向と現場状況」をテーマとし、渡部直史氏（大阪大学）より、核医学セラノスティックスの最前線と今後の展望についてご講演いただき、川口修平氏（大阪大学）より、フロンランナー施設であるがゆえのご苦労や工夫を放射線安全管理の面からお話いただきます。これから急速に普及することが予想される核医学治療について、最新の知見をご紹介します。

特別講演Ⅲは「原子力災害への対応と自治体における取り組み」をテーマとし、長久保梓氏（日本原子力研究開発機構）、加藤直暉氏（滋賀県防災危機

管理局）よりご講演いただきます。原子力災害が起これば、主任者を含めRI関係者の動きが必要とされます。原子力災害への理解を深める機会となることを期待しております。

交流会は大会1日目の夜にびわ湖クルージング船にて開催します。普段とは違う空間で、参加者の方々が和やかな雰囲気の中で交流を深める機会を設けたいとの思いがあり企画いたしました。びわ湖の夜を五感で感じながら、ゆったりとした時間をお楽しみください。

大会2日目は、2つのシンポジウムを行います。シンポジウムⅠは「大線量照射事業の現状と将来予測」をテーマとし、金田宏樹氏（丸紅ユティリティ・サービス）、廣庭隆行氏（コーガアイソトープ）、芳原新也氏（近畿大学）により、 ^{60}Co 線源の現在の需給状況及び将来予測、 γ 線照射施設の現場目線での現状や課題、近年規制強化された大線量照射施設等に係る防護管理と基本的な考え方をご講演いただき、主任者としての知識をあらためてアップデートする機会をご提供いたします。

シンポジウムⅡは企画専門委員会企画として「琵琶湖をめぐる安全サイクルー放射線管理の365日ー」をテーマとし、鈴木智和氏（大阪大学）、尾上昌平氏（鹿児島大学）にご講演いただきます。1年間の放射線管理業務の流れをお話いただくとともに、放射線安全管理について具体的な事例をご紹介しますことで、日常の放射線管理に関する課題を解決する一助といたします。

「三方よし」の精神が息づく近江の地、大津・びわ湖畔にて、放射線をめぐる管理・利用・世間との調和について皆さまと共に考えるひとときとなれば幸いです。実行委員会一同、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

（近畿大学原子力研究所）